



## 日本

日本は幸福度を測るいくつかの指標で良好な実績を上げており、「より良い暮らし指標」の複数の項目で平均並みか平均以上に位置づけられています。お金で幸福を買うことはできませんが、お金はより高い生活水準を獲得する重要な手段です。（以下の解説において、下線付き括弧内は前回調査結果の数字です。）

### 家計所得(Income)

日本の平均年間家計所得は2万4,147米ドル(2万3,458)で、OECD平均の2万3,047米ドル(2万2,387)を上回っています。しかし、富裕層と貧困層の所得格差は大きく、人口の上位20%の所得は下位20%の所得の6倍(5倍)を超えています。

### 雇用(Jobs)

雇用に関しては、日本の15~64歳人口の有給就業率は70%で、OECDの雇用平均の66%を上回っています。男性の有給就業率が約80%であるのに対し、女性は60%で、これは女性が仕事と家庭生活を両立させることの難しさを示唆しています。日本人の年間労働時間は1,728時間(1,733)で、OECD平均の1,776時間(1,749)より少なくなっています。

### 教育(Education)

良い教育は就職する上での重要な条件です。OECDの学習到達度調査(PISA)によると、日本の生徒の読解力、数学的応用力、科学的応用力の総合点は平均で529点です。これはOECD平均の497点より高く、生徒の技能面で日本はOECD加盟国中最も強い国の1つとなっています。日本では女子の成績の方が男子の成績より平均で14点高く、OECDの男女差平均である9点を上回っています。

### 健康と環境(Health and Environment)

健康に関しては、日本人の平均寿命は約83歳で、OECD平均の80歳を3歳(2歳)上回っています。平均寿命は女性が86歳、男性が79歳です。大気中のPM10濃度は25 $\mu$ g/m<sup>3</sup>(27)で、OECD平均の21 $\mu$ g/m<sup>3</sup>(22)を上回っています。水質は良好で、国民の86%(88%)が水質に満足していると回答しており、OECD平均の84%を上回っています。

### 公共領域・市民参加意識(Community and Civic Engagement)

公共領域に関しては、日本は共同体意識が強く、市民参加意識は中程度で、困った時に頼れる人がいると考えている国民の比率は90%(92%)です。投票率は国民の政治に対する信頼と市民の政治プロセスへの参加を測る目安となるものですが、日本の近年の何回かの選挙で見ると69%(67%)で、OECD平均の72%(73%)を下回っています。社会の全体にわたり投票率の差はほとんど見られず、所得上位20%は69%(67%)、所得下位20%は68%(67%)であり、日本の民主制度においては社会が広範囲にわたって統合されていることを示唆しています。

### 生活満足度(Life Satisfaction)

総じて日本人の生活満足度はOECD平均より高く、国民の87%(70%)が、平均的な1日において否定的な経験(苦痛、心配、悲しみ、退屈など)よりも肯定的な経験(安心感、達成感、喜びなど)を感じることをの方が多いと答え、OECD平均の80%(72%)を上回っています。

\* 原文はこちら <http://www.oecdbetterlifeindex.org/countries/japan/>

### Housing



### Income



### Jobs



### Community



### Education



### Environment



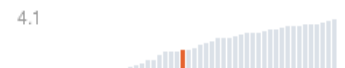
### Civic engagement



### Health



### Life Satisfaction



### Safety



### Work-Life Balance

